

# 過激主義と現代人

## 危険は却つて政府側に在り

小川未明

(一) 今度政府が議會に上さうとしてゐる社會主義に關する法案の如きは、通過するとすれば暴力の下には一切の正義が認められぬといふ事を示すものだ。そしてこれを通過させる議會、即ち議員等は最も明かに彼等が資本主義者の味方であり、資本主義の擁護者であるといふ事を示すに外ならない。何んぞ彼等に民衆の代辯者といふ名を冠することが出来やう。

(二) 近代文明が斯かる問題を生んだものとすれば、我々はそれに対して根本的の疑念を抱く。凡そ文明は人間の生活を平等の幸福に導く運動に於いて初めて意義があるであらう。然るに今日の人間生活はどうか。時に反叛して吾人の生活は不平等に置かれ、従つて貧富の懸隔は甚しく、そこに搾取階級、被搾取階級の不倫理を現出しつゝあるではないか。斯かる懸隔を除き人間生活を

をより平和により正しくする事、即ち正義の爲め、愛の爲めにする運動が何ぞ過激であるのか。彼等の立場が資本主義に立つてゐればこそ、そしてその主義が、人間生活を壊らしてゐるに依らず、それを固守するが故にこそ危険も促されるのである。

(三) 若し法律の精神が民衆の爲め、また民衆の幸福の爲めであつたなら、斯かる法案の考へらるべき理由は少しもない。彼等は宣傳といふ事をどう考へてゐるか知れないが、單なる強硬な態度で人間はどうも出来るものではない。本當の運動は心からの信念である。社會主義の運動が外國の口實似や若くは危険文書に關連などから決して起るべきではない。早い話が彼等學者達ほど程多くの危険書を讀破してゐるかも知れない。然し彼等に幾人の社會主義者があらう。凡ては本當の人間の心を保持した人間の心が自己の爲めそして兄弟の爲め、また一般民衆の爲めに戦ひを盡す運動である。

(四) 社會主義は決して議論ではない人間の感情であり、またそれではなれない。本當に正義の何物であるかを知り、愛を感じてゐるならば、眼前の不正實なる事實に對し、曲惡なる事實に對して黙すべき筈がない。小作人問題の如きも本當に地に親しむ者に取つては、到底黙過し難い問題に違ひない。斯くの如き人間の憤りにそれをどうしても成し遂げなければならぬ人間運動を、只だ強權の下に壓迫しようといふ事が、何んぞ正しい事と云へやう!

(五) 併しその何れが正しく、何れが間違つてゐるか、本當に心ある人の裁斷を待たば、直ちに解かることだ。兎に角、現在の議會政治が正義の爲めにどれだけの精神を持つてゐるか、は刮目に値する。大きな重石に押しがれた草でも生命のあるものは、時日が来れば延びて行くといふ事實を、彼等は知らないか。(讀賣新聞轉載)

# 民衆の自由を救へ

## 過激思想取締法に就て

平林初之輔

(一) 輿論の前後を失つた反動政府は城砦の中にたてこもつて機關銃をすへつけようとしてゐる。國家の使用し得る最大の武器をとつて民衆の運動を難仆さうとしてゐる。身に寸鐵を帯びない無量の民衆を敵口せしめ、極度に陰鬱ならしめ無力ならしめ、國家全體を牢獄に閉閉しておいて、政府はその安全を樂しまうとしてゐるのだ。

(二) 民衆諸君! 今度の過激思想取締法は吾々の歴史を未曾有の壓制をもつて汚すものだ。政府の権力態がこれ程露骨に地金をらはしたことはない。吾々は生きてゐる以上、此の亂暴な汚辱を傍觀してゐる譯にはいかない。それは吾々自身に對する此の上ない侮辱だ。

(三) 議會に多數を有する政友會諸君! 諸君の眼には民衆が見えないか? 諸君の耳には民衆の聲が聞えないか? 諸君は諸君を普通選挙に賛成する事を拘束してゐるやうだ。併し今度こそ憲法ではない。若し今度も憲法でこれに賛成するやうなことがあつたら、政友會はその名前も立憲の二字の代りに自由と人民との敵といふ文字を冠しなくてはならぬのだ。そこで諸君の判断を左右するものは諸君の自由意志だ。進んで民衆の敵になるか味方になるかだ。

(四) 野黨議員諸君! 無論諸君は此の汚辱を忍ぶべきでない。この場合には諸君の背後には民衆がついてゐる。常に正しいものに味方する民衆がついてゐる。司法當局の貴族院に於ける説明によると、既米諸國で機に問題になつてゐる代議政治を云々することも、社會の進化と共に變つてゆく道徳を否定する進歩といふことだ。こんな杜撰な法案がどの國にある? 社會制度

(五) 貴族院議員諸君! 諸君の大多数は國民の最高の知識と名譽との代表者である筈だ。諸君の良心は最も明達である筈だ。今その試験の時が来たのだ。吾々は民衆の名に於て、諸君の名譽と知識と良心に恥ぢない行為を期待して居る。かゝる限制がどの國にあるか? いつの時代にあつたか?

(六) 労働者及び農民諸君! 學者及び探偵者諸君! 吾々が互ひの殺されたれようとしてゐるのだ。吾々は無論一致してこの横暴に反抗せねばならぬ。輿論の怒濤をもつて権力態の権化を空に吹き飛ばさなければならぬ。それは吾々民衆の名譽と自由を救ふことだ。(讀賣新聞轉載)